大阪市立科学館研究報告 20, 21 - 26 (2010)

天文民俗調査報告（2009年）

北 尾　浩 一 *

概　要

学校教育において、星名と言えば、オリオン座、おうし座、ベテルギウス、リゲル、アルデバラン等の西洋名を中心に使われている。しかし、農村・漁村の伝統的な暮らしのなかでは、星がカレンダー・時計・コンパスの役割をしており、日本古来の伝統的な星名が伝えられている。学校教育において、天文を学ぶことはなかったが、暮らしのなかで自分の目で観察して星の知識を習得し、親から子へと継承していったのである。それらの生活経験にもとづいた星名伝承は、今日の教育分野においてともすると知識の暗記になりがちな星名知識を文化として多様で豊かなものであると再評価させるために重要なものである。

伝統的な星名伝承は、世界天文年2009年においても記録することができた。星名伝承は、決して過去のものではなく、今も続いている人間と星のかかわりであり、そのなかには、民衆の星の観察力を見出すことができる。本報告の目的は、それらの伝承資料を、現代及び未来の科学教育に活用するために記録することである。

1. はじめに

筆者は、1978年、新潟県佐渡郡相川町姫津（現佐渡市）より星の伝承の調査をはじめた。1979年、沖縄、北海道の星の伝承をたずねて歩いた。あと10年ぐらいで星の伝承は失われてしまうという危機感から調査を急いだ。嬉しいことに、伝承の力が予想以上に大きく、21世紀になってからも、そして、世界天文年2009年においても多様で豊かな星名伝承を記録することができた。日本の星名伝承というと、野尻抱影（1936）（1973）、内田武志（1949）、桑原昭二（1963）によって、ほぼその集大成が完成されていると思われがちである。しかし、その後も、多様で豊かな星名伝承が記録されている。

世界天文年2009年まで伝えられた星名伝承が、私だけに語られて終わることがあっては決していけない。学校教育・社会教育の場で伝えていかなければならない。本調査は、失われてしまおうとする過ぎ去った昔の伝承を記録するという段階にとどまるのではなく、星と暮らした人びとの持つ自然としての星に対する観察・認識の眼差しに注目して実施した。

*中之島科学研究所（科学教育）
kitao@kagaku-shinko.org

2. 調査の概要

2-1. 調査方法

漁業に従事した経験を持つ高齢者（おおむね昭和10年以前の生年）を中心にインタビュー調査を行なった。最も高齢の話者は大正3年生まれ、最も若い話者は昭和24年生まれであった。私の生年に限りなく近づいており、同世代が伝承者であることに大きな感慨をおぼえた。予めアポイントを取るという方法ではなく、調査地において伝承者を探した。一日歩いても星名伝承に出会えないケースも多いが、ともかく「歩く」ということをキーワードに実施した。また、星名伝承を主な調査対象にしたが、年中行事（七夕等）についても必要に応じて調査対象とした。

2-2. 調査地

2009年1月～12月までに、以下の54箇所で星名の記録を行なうことができた。

- 1月…千葉県夷隅郡御宿町岩和田、静岡県伊東市宇佐美、下田市須崎、賀茂郡南伊豆町妻良、西伊豆町安良里、西伊豆町沢田
- 2月…静岡県浜松市舞阪町、三重県尾鷲市須賀利町、熊野市仁木島町、仁木島里町、甫母町
- 3月…北海道苫小牧市汐見町、沙流郡平取町二風谷、福岡県遠賀郡芦屋町柏原、鹿児島県鹿児島郡十島村口之島、中之島

・6月…新潟県佐渡市水津、姫津、真浦、赤泊、小木、米郷、青森県むつ市大畑町湊村、八戸市鮫町種差漁港、大久喜漁港
・7月…静岡県湖西市鷲津、熊本県熊本市松尾町上松尾要江、水俣市袋茂道、鹿児島県姶良郡加治木町、鹿児島郡十島村中之島
・8 月…福島県相馬市尾浜、いわき市平豊間
・9月…神奈川県三浦市南下浦町松輪、三崎町城ケ島、海外町、横浜市金沢区柴町、北海道函館市泊町、茅部郡鹿部町大岩
・10 月…新潟県岩船郡粟島浦村内浦、釜谷、静岡県熱海市網代、千葉県富津市富津、館山市船形、南房総市富浦町多田良
・11 月…北海道函館市大船町、豊崎町、上磯郡木古内町釜谷、泉沢、檜山郡江差町柏町、千葉県富津市萩生
・12 月…千葉県富津市竹岡、南房総市白浜町白浜、愛知県蒲郡市形原町、幡豆郡吉良町、幡豆郡幡豆町鳥羽崎山

3. 各地域の星名伝承

2009年に調査を実施した地域は、「北海道」「東北」「関東」「甲信越」「中部」「九州・奄美」である。「北陸」「近畿」「中国・四国」「沖縄」の地域は、実施することができなかった。各地域で記録した星名伝承の概要は、以下のとおりである。

3-1. 北海道

3月に、沙流郡平取町において、日本の先住民族アイヌの星名伝承を記録した。また、9月、11月に、イカ釣り漁師の星名伝承を記録した。東の空から順にのぼるプレアデス星団、ヒアデス星団、オリオン座三つ星（または三つ星と小三つ星とη星で構成する配列等）、シリウス等の星の出に、イカが釣れるという伝承は、2009年においても記録することができた。イカ釣りの目あてとする星のことを「役星」と言った。（石橋、1989）

(1) 沙流郡平取町二風谷

二風谷において、日本の先住民族アイヌの月に関係する伝承を記録した。

「ほんとうは、子どもがね、桶とピサック（柄杓）を持って、あそこに立っているんだよ。ウサギが杵を持っているのは、嘘だよ。アイヌの物語をウサギに変えたんだよ。勝手に変えられてしまったのだよ」

月の模様はウサギではなく、水汲みに行くのを嫌がった子どもが桶を持って立っている姿であると伝えられていた。クンネばあちゃん（クンネノチュウ、シネップノチュウ、一番星）の出る頃、ようやく子どもは、「イロリの灰はここで何もしないでいいな」と、灰をつつきまわしてから、「水を汲まないと」と、水桶をふり、ピサック（柄杓）を持って、川に降りて行ったものの水を汲むのが嫌で川で遊んでいたので、とうとう神さまが怒って、月へ連れて行ったのだった。それからというものの、怠けている子どもに、「お月さんが怒って、あのなかに持っていくよ」と言うと、子どもは、言うことを聞くようになったと伝えられていた。（北尾 2009）

また、「一番星になったおばあちゃん」（北尾 2010）を記録した。

(2) 函館市泊町

函館市泊町においては、7月、8月から9月はじめ、遅い場合は 10 月までイカの盛りであり、次のような星名伝承を記録することができた。

・役星…ウジラ（いちばん先出て。ぼしゃーとして、はっきりしない。ぼしゃーと雲みたい。六連星（ムツラボシ）の転訛。プレアデス星団）、サンコウ（三光、オリオン座三つ星）、アオボシ（青星、シリウス）。（アケノミョージョーは、イカ釣りには関係ない）
・目標の実際…サンコウの星、出たな。おーいイカがつくぞーと、言った。星の出るときまで待ってる。月より星。月は明るいからイカが隠れる。
・星の出にイカが釣れる理由…サンコウ、あれ出るようになったら、海の温度かわるのだから、イカつくよ。
・最もよく釣れる役星…ウジラ、サンコウ、アオボシのなかで、どの星がいちばん釣れるかは、そのときによる。
・曇天で星が見えないとき…星が何時頃出るって丹念している。船頭さんわかる。船頭さん以外も、みんなわかる。乗ってる人みんなわかる。曇っていても、サンコウ、アオボシと、わかる。（話者生年、大正11年）

(3) 函館市大船町

イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。

・役星…ムズナボシ（たくさんかたまってる星。10も20もかたまってる。ムズナ（タヌキ）みたいに出てくる。六連星の転訛。プレアデス星団）、ミズボシ（ミツボシ。オリオン座三つ星）、アオボシ（青くひとつ大きく光って。それ出ると夜明け近い。夜明け3時頃にあがってくるだ。青星。シリウス）
・目標の実際…ついてはじめて、あの星の出たときついた、と言った。ムズナボシ、2時間、ミズボシ、2時間、アオボシ。そのときによって、月の出、つくときもある。ミズボシも、つかないからオカ上がるか、寒なる、と言った。イカ、12月まで。エンジンなかった。もともと櫓ばっかり。時計、たいてい持ってない。星の上がりが何時だと丹念している。（話者生年、昭和10年）

(4) 函館市豊崎町

イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。

・役星…ムズラボシ（こまかくかたまってる。数えれねえ。10も20も出はってね。こまく。六連星の転訛。プレ

アデス星団）、ミツボシ（3個。オリオン座三つ星）、アオボシ（きらきらと、光る。青く。シリウス）、ミョードー（朝に夜明けに、ちょっと前に、ミョードーいう星。明けの明星（金星））

・目標の実際…ムズラボシ、イカつかねば、ミツボシを丹念して。ミツボシのあと、アオボシの出まで寝る。秋、イカつけ。スルメイカ。8月、夏イカ、9月、10月、11月、12月くらいまでイカ。アオボシの出るまで、がまんして待った。ミツボシでつかなくてもアオボシまで待った。アオボシのあと、ミョードー、アサイカ。夜が明けてくる。30分くらいで夜が明ける。ミョードー、つかねばしょうがない。月の出だめ。星の出、昔、丹念して。

・曇天で星が見えないとき…曇っててもアオボシの出まで待ってる。（話者生年、昭和4年）

(5) 上磯郡木古内町釜谷

イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。

・役星…ムジラボシ（こまい。ちっちゃい、6つ。うんと暗いわけではない。六連星の転訛。プレアデス星団）、ミツボシ（3つこう並んでる。たてに 3 つ並んでる。明るい。オリオン座三つ星）、アオボシ（特別、青く光って大きい。光る。いちばん明るい。シリウス）、シタボシ（ちょっと大きい。上がるの遅い。色がうすい。青くない。普通の星、きらきら。イカ釣り、夜通しやると、上がってくる星。輝き弱い。きらきらしない。大きい。ふつうの星より大きい。輝きがない。明けの明星[筆者注：惑星で恒星のような瞬きがないことをうまく表現]）

・目標の実際…ムジラボシ上がったな、いうじぶんに騒ぐ。のぼると騒がない。落ち着いてくる。イカ、6月から12月。星の出の間隔は45分くらい。星の出に必ず騒ぐことはない。もうそろそろアオボシあがるじぶんになって、寝てても起きる。番する人がいて。ムジラボシ、ミツボシ、アオボシ、シタボシだ。月の出もイカ騒ぐ。

・星の出にイカが釣れる理由…星の出にイカが釣れる理由は、それだけは漁師わからん。

・最もよく釣れる役星…どの星がつくというのでもない。どの星が多く釣れるというわけではない。

・曇天で星が見えないとき…星が見えなくてもアオボシ上がる時間なるとさわぐ。

・イカ釣り以外の伝承…七夕。ローソクもらって歩いた。缶に提灯みたいに穴あけて、紐をつけて持って歩いた。ローソクたてて。

・特記事項…南部出身の人が運搬船で函館へ商売に来ていた。あるとき、難破してここに流れ着いた。そして、ここに住み着くことになった。（話者生年、昭和10年）

(6) 茅部郡鹿部町大岩

イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。

・役星…ウズラボシ（かたまった星がでてくる。いっぱいある。5つや6つでない。天の川のようにいっぱいある。六連星の転訛。プレアデス星団）、ミツボシ（オリオン座三つ星）

・目標の実際…ウズラボシのときイカが釣れると、仕事を終えて家に帰る。イカが少ないとき、ミツボシあがるまで待つ。

・星の出にイカが釣れる理由…ウズラボシ出たとき、「水が変わる」と年寄りから聞いていた。水が変わる理由はわからないが、ミズガワリにイカがつく。イカが少ないときミツボシあがるまで待つ。ミツボシあがると水変わる。イカとれる。（話者生年、昭和3年）

(7) 檜山郡江差町柏町

イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。

・役星…ウズラボシ（小さい星がこちょこちょとかたまってる。6つ7つもかたまってるかな。小さいけどわかる。六連星の転訛。プレアデス星団）、ツリガネ（半鐘、お寺の釣り鐘にみえる。Λの形。はっきり、釣り鐘に見える。ヒアデス星団）、マスボシ（桝の形、ここに柄がついた恰好。オリオン座三つ星と小三つ星とη星で構成する配列）、アオボシ（結構明るいよ。青く光る。ひとつ。ミツボシより明るい。シリウス）、オオボシ（ヨアケボシという人もいた。あれ上がって2時間ほどで夜が明ける。明けの明星）。

・目標の実際…イカは6月から12月。星の出と出の間は休む。寝る。番をしている人がいる。満月、イカつれない。月より星を目標。

・イカ釣り以外の伝承…①七夕、ローソクもらって歩いた。蛇の目傘のつぶれた竹で提灯つくって。②十五夜、ヤスで団子をとった。怒られない。（話者生年、昭和7年）

3-2. 東北

青森県においても、2009年にイカ釣りの役星についての伝承を記録することができた。

(1) 青森県むつ市大畑町湊村

イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。

・役星…シバリ（かたまって出はる星。スバルの転訛。プレアデス星団）、サンコウ（大きい星3つ並んで。オリオン座三つ星）、アオボシ（青く光る。シリウス）、ヨアケボシ（夜明け星、明けの明星）

・目標の実際…シバリ、サンコウ、アオボシ、ヨアケボシ、星の出、イカつく。星が手をのばして（手を伸ばしながら話された）1尺ぐらい上がると、つかなくなる。ついてもたまにぽつぽつ。星の出なれば、ぜんぜんつかねえときも、ついてくる。シバリ上がったあと、寝て、サンコウ上がると起きて道具（トンボ、ハネゴ）を海に

入れる。
・星の出にイカが釣れる理由…わかんねえ。
・曇天で星が見えないとき…曇りの日、雨の日は、よけいつく。雨で星見えてなくても、だいたい時間、星、上がる時間わかる。機械になっても星関係した。サンコウの出、雨でもわかる。
・イカ釣り以外の伝承…七夕。子どもが集団で、ローソク、お金でも（1銭）、「出せ出せ出せよ。出さねばかっちゃくぞ」と、ササに提灯つけて、もらって歩いた。
・特記事項…星、月、ここはみんな海から出る。太平洋から出る。太陽も星も山に入る。海から出て山に入る。（話者生年、大正11年）

（2）青森県八戸市鮫町種差漁港
イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。
・役星…サンコウ（3つこう並んでたんだな。オリオン座三つ星）、サンコウアトボシ（サンコウと離れて1個で出る。シリウス）
・目標の実際…星の出に、つくときもあった。つかねえときもあった。イカつくときある、月の出。（話者生年、昭和3年）

3-3. 関東

千葉県、神奈川県、静岡県において、星名伝承を記録することができた。

［千葉県］
・富津市萩生…スバリ（プレアデス星団）、サンズイボシ（オリオン座三つ星）等
・富津市竹岡…サンギボシ（オリオン座三つ星）等
・館山市船形…メラボシ（カノープス）等

［神奈川県］
・横浜市金沢区柴町…サンボシ（オリオン座三つ星）等

［静岡県］
・熱海市網代…スバル（プレアデス星団）、ツリガネボシ（ヒアデス星団）、ヨアサノミョージン（明けの明星）等
・下田市須崎…メシタキボシ（明けの明星）等
・南伊豆町妻良…ミツダナサン（オリオン座三つ星）等
・西伊豆町安良里…ムツナリサン（プレアデス星団）等
・西伊豆町沢田…サンボシ（オリオン座三つ星）等
・浜松市舞阪町…トビアガリ（明けの明星）等

千葉県富津市及び館山市において、次のような伝承を記録した。

（1）千葉県富津市萩生
明治30年代生まれの父親から伝え聞いていた星名伝承を記録した。
・サンズイボシ…3つの星。あの星ね、宵のうちに東のほうにあるのが、朝なれば西のほうにある。東の空にあって、夜は何時間もある。朝なれば西きちゃう。
・スバリ…鉛をとかして、針金を曲げたのをつける。針金を8本くっつけて。そのスバリに似た星。星の数、10個くらい。網が切れたときにひっかけるのに使う。（話者生年、昭和3年）

漁具スバリ（千葉県富津市萩生）

（2）千葉県館山市船形
明治40年生まれの父親から伝え聞いていたメラボシ（カノープス）を記録した。
・名前の由来…館山の布良。
・見える季節…メラボシ。寒いときに出る。
・伝承…メラボシは女のなきがら。女の人が後家さんなって悲しいから、南のほうに出る。布良はマグロ延縄漁の発祥地。そのマグロ船が遭難した。南東の風、イナサが吹いた。イナサの風はいちばん悪い風。メラボシ、かわいそうな星だ。
・見える条件…メラボシは、北の風のとき、空気のきれいときに南の低い所に見える。見たことある。（話者生年、昭和17年）

3-4. 甲信越

筆者が1978年に調査をはじめた地、佐渡を再び訪れた。以下の他に、佐渡市真浦にて、タテカンジョウ（オリオン座三つ星）等の星名を記録した。

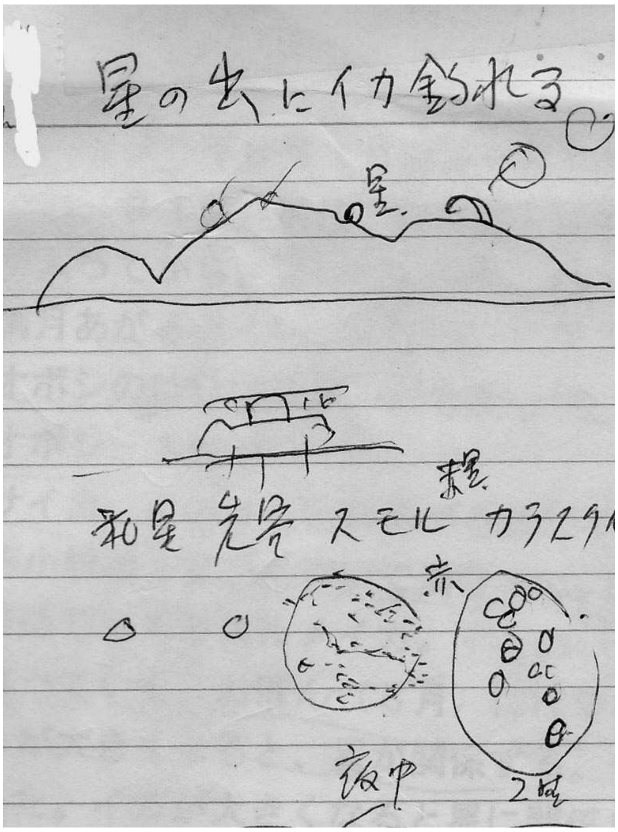
（1）新潟県佐渡市姫津
イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。
・役星…ワボシ（和星、見えにくい、暗い、ひとつ。不明［サキボシの1時間足らず前ということから、おひつじ座α？］）、サキボシ（先星。明るい。カペラ）、スモル（小さい20くらいある。小さい星がまるくなってぐじゃぐじゃする。スバルの転訛。プレアデス星団）、アカボシ（赤みがかっている。アルデバラン）、カラスキ（全部で5つくらいある、全部のぼるまで時間かかる。オリオン座三つ星と小三つ星［筆者注：小三つ星が暗いため、「5つくらい」という表現になったと思われる。

「カラスクイ」と書いてくださったが、「カラスキ」と聞こえる]）

・目標の実際…山からあがってくる。星の出。ひとつずつ、順番がある。イカが、星の出の15分くらい前からつく。ワボシ、サキボシ、スモル、アカボシ、カラスキの出。ワボシからカラスキまでの星を「やくぼし」と言った。役を担っている。和星、1時間足らずでサキボシ、1時間スマル、1時間アカボシ。オオボシを使ったときもある。星よりも月の入り、月の出、楽しみ。半分くらいの月がよい。サキボシ、月、スモルというように間に月の出があることもある。月の入るときも、イカの食いがよくなってくる。月があと20分くらいで出るとき、釣れだす。月が上がるときいちばん食いがよい。月が5m、10mあがって、だんだん高くなると、食わんようになる。

・最もよく釣れる役星…スマル、カラスキが、いちばん強い。

・曇天で星が見えないとき…星、見えんかっても、曇りで見えなくても、イカのつきよい。今はこの星の出と言った。何の星の出、今、何時頃、時間わかる。（話者生年、昭和11年）



姫津のイカ釣り漁師さんの説明図

(2)新潟県佐渡市米郷

イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。

・役星…スバル（グジュグジュと小さい星、5つも7つもかたまって出る。プレアデス星団）、ミツボシ（1つの星。光る星。けっこう光ってる。アルデバラン[筆者注：ミツボシは、本ケースの場合、オリオン座三つ星ではない]、サンコウ（オリオン座三つ星）、アトボシ（大きい。シリウス）

・目標の実際…サンコウの出になると、船頭が場所替えせんかと言って移動して。アトボシの出になると必ずとれる。サンコウとアトボシの間もとれる。中間は切れ間なる。ヨアケノミョージョーの出は、イカとったことない。月の出、イカあるときもある。月の入りにイカついたこともある。旧の4日、5日、月の入りは、イカある。

・星の出にイカが釣れる理由…特にない。

・曇天で星が見えないとき…曇った日とれる。サンコウの時間なったな、イカとれる。アトボシの出、その時間なると、とれる。必ずでない。雨降りの晩、イカある。星が見えなくてもサンコウの頃と言って。

・イカ以外の目標…タイの夜釣りに出ても、サンコウの出なれば釣れた。タイも釣れた。（話者生年　昭和4年）

(3)新潟県佐渡市小木

イカ釣りに関係する伝承とともに、「ホクサンボシ」という星名をはじめて記録した。

・ホクサンボシ…金北山（キンポクサン）のほうからのぼる。北東にある。小木から北、田野浦から北東。 スバル、東のほう。ホクサンボシ、東より北。間は30分。（話者生年、昭和3年、田野浦在住。港は、小木を使用）

3-5. 中部

2月に、三重県尾鷲市須賀利町で、ジョウトウヘイ（オリオン座三つ星）、ナナツボシ（おおぐま座$\alpha\beta\gamma\delta\varepsilon\zeta\eta$星）等、12月に、愛知県蒲郡市形原町にてネノホシ等、吉良町にてキタノホシ（北極星）等、幡豆町鳥羽崎山にてサンコウサン（オリオン座三つ星）等を記録した。

(1)愛知県蒲郡市形原町

ネノホシ（北極星）と山で方角を知った。

・ネノホシ…昔の人が方向見た。ネノホシと山をつめる。ネノホシが曇って見えないときは、山が見える。明かりもある。山をつないでいく。（話者生年、昭和9年）

(2)愛知県吉良町

最も若い話者であり、今もキタノホシ（北極星）を目標にしていた。

・キタノホシ…キタノホシが大山（オオヤマ）の上にあがると、砂利が入る。網に小砂利が入る。渥美半島の大山。キタノホシ、動かない。（話者生年、昭和 24年）

3-6. 九州・奄美

今までアンケート調査のみであったトカラ列島の現地調査を実施することができた。

(1)鹿児島県鹿児島郡十島村口之島

・スマル、スガル(プレアデス星団)…びっちりとかたまって。たくさんある。小さか星がいっぱいある。

・星についての知識の習得…スマル、じいちゃん(明治5年生まれ)に習った。小さいとき、庭に連れて行って、真っ暗、あれ何の星、これ何の星と習った。スマル、北斗七星、おじいちゃんに習った。じいちゃん、ばあちゃん、時計ないので星で教えてくれた。

・十五夜…綱引きのあと相撲取りをした。(話者生年、昭和2年)

(2)鹿児島県鹿児島郡十島村中之島

・ヨアケノミョージョー…それも月のないときに、山の上から2，3mあがったら、夜が明けるよって。ヨアケノミョージョー、東。方向わかる。

・気象予知…夜、晴天でありながら、星がきらきらきらきらと光る、その明くる日は、海は荒れるとか、聞かされましたよ。

・七夕の竹…釣り竿に使いよった。(話者生年、昭和12年)

(3)熊本県熊本市松尾町上松尾要江

・サカヤノマス…お酒、酒屋で一合瓶いれて。一升瓶は豪農か。上見れば、星きらきらしてる。サカヤノマスだけは、すぐわかりよった。秋10月から12月。サカヤノマス、見える。酒をつくった匂いがしてくる。南十字よりサカヤノマス、まとまってきれい。サカヤノマス、東からのぼり西へ沈む。

・星についての知識の習得…明治17年生まれの父親から聞いた。(話者生年、大正5年)

4. おわりに

世界天文年2009年において、多様で豊かな星名伝承を記録することができた。2009年の調査を終えて、以下の5点を特記事項としてあげたい。

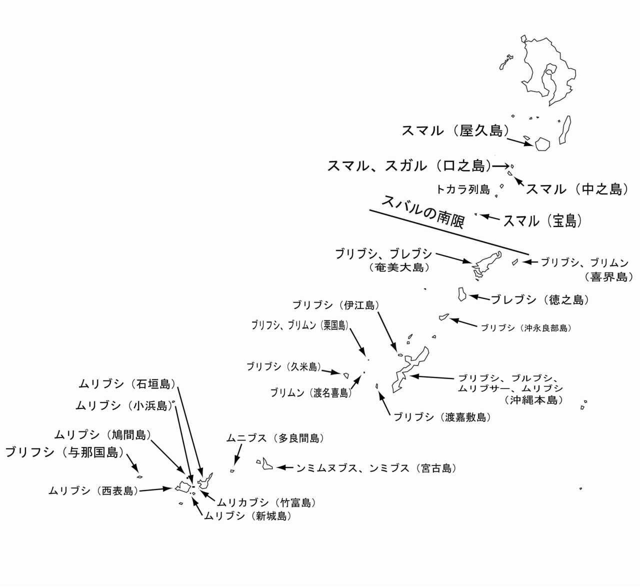
①2009年において、はじめて記録することができた星名があった。例:ホクサンボシ(新潟県佐渡市)

②星が見えない曇天のときも、星の出を感じるというイカ釣り漁師の「勘」を記録することができた。(北海道函館市、青森県むつ市、新潟県佐渡市)

③1978年に記録した佐渡姫津(北尾、2002)を再調査し、30 年以上の年月の経過にもかかわらず、星名伝承を記録することができた。

④昭和24年生まれの話者から星名伝承を記録することができた。星名伝承は、昭和10年代が限界という考え方を改めなければならなくなった。

⑤スバルのグループの星名の南限がトカラ列島であることを改めて確認することができた。



トカラ列島がスバルの南限であることを確かめることができた

今、時刻を知ることがデジタルで表示される時計の文字を見ることになってしまった。方角は GPS に頼ることになってしまった。星と山等で構成される景色をもとに、判断する必要ななくなった。本当にそのことが人間にとって総体としての「発達」になったのであろうか。それによって失ってしまった「力」のなかに、たいせつなものがなかったであろうか。

2010年も星名伝承の調査を続けている。2010年1月、静岡県伊東市にて、3月、茨城県神栖市波崎等にて、星名伝承を記録することができている。これからも、生活者の星を見る眼差しを、星名伝承に発見するという仕事を続けていきたい。

参考文献

野尻抱影:1936, 日本の星, 研究社

野尻抱影:1973, 日本星名辞典, 東京堂出版

内田武志:1949, 日本星座方言資料,日本常民文研究所

桑原昭二:1963,星の和名伝説集－瀬戸内はりまの星－,六月社

石橋正:1989,乾杯！海の男たち,成山堂書店,250

北尾浩一:2009,天界9A 月,東亜天文学会,564-565

北尾浩一:2010,天界1月,東亜天文学会,15-16

北尾浩一:2002,星の語り部,ウインかもがわ,3-4